

嘉瀬川における今後の治水対策について

令和7年11月

国土交通省 九州地方整備局
佐賀河川事務所

佐賀県 県土整備部 河川砂防課



佐賀河川事務所



佐賀県

1. 説明会の開催趣旨について
2. 今後の治水対策について説明
3. 意見交換
4. 閉会

- ・ 本説明会は、嘉瀬川の今後の治水対策について、地域の皆様から忌憚のないご意見をいただくために、嘉瀬川を管理している佐賀河川事務所(国交省)と佐賀県の主催で開催させていただくものです。
- ・ 終了後、同封のアンケートにご記入いただき、お帰りの際に受付にご提出いただけますと幸いです。

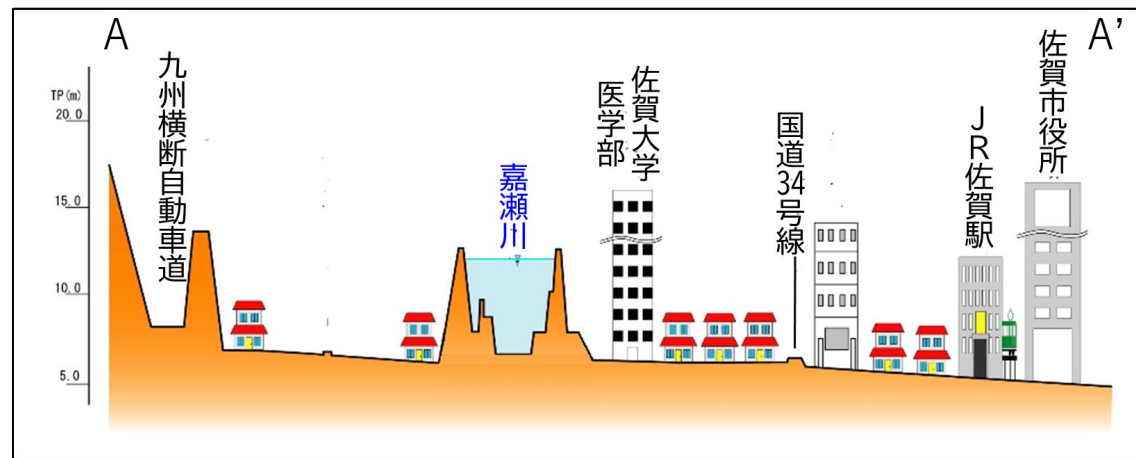
1. 嘉瀬川流域の特徴
2. これまでの主な洪水被害
3. 嘉瀬川の治水計画
4. これまでの整備状況
5. 気候変動による水災害の激甚化・頻発化
6. 気候変動を踏まえた治水計画のあり方
7. 嘉瀬川における今後の治水対策について

1. 嘉瀬川流域の特徴

- 嘉瀬川大堰より下流は、有明海の干満（最大約6 m）による影響を受ける ⇒ガタ土堆積、排水不良
- 山地部は山が浅く、平地部は佐賀平野（低平地）を貫流している ⇒山地部の水が一気に平地に集まる
- 中流部は川底面が周辺の土地よりも高い天井川である ⇒河川から氾濫した場合のリスクが大きい



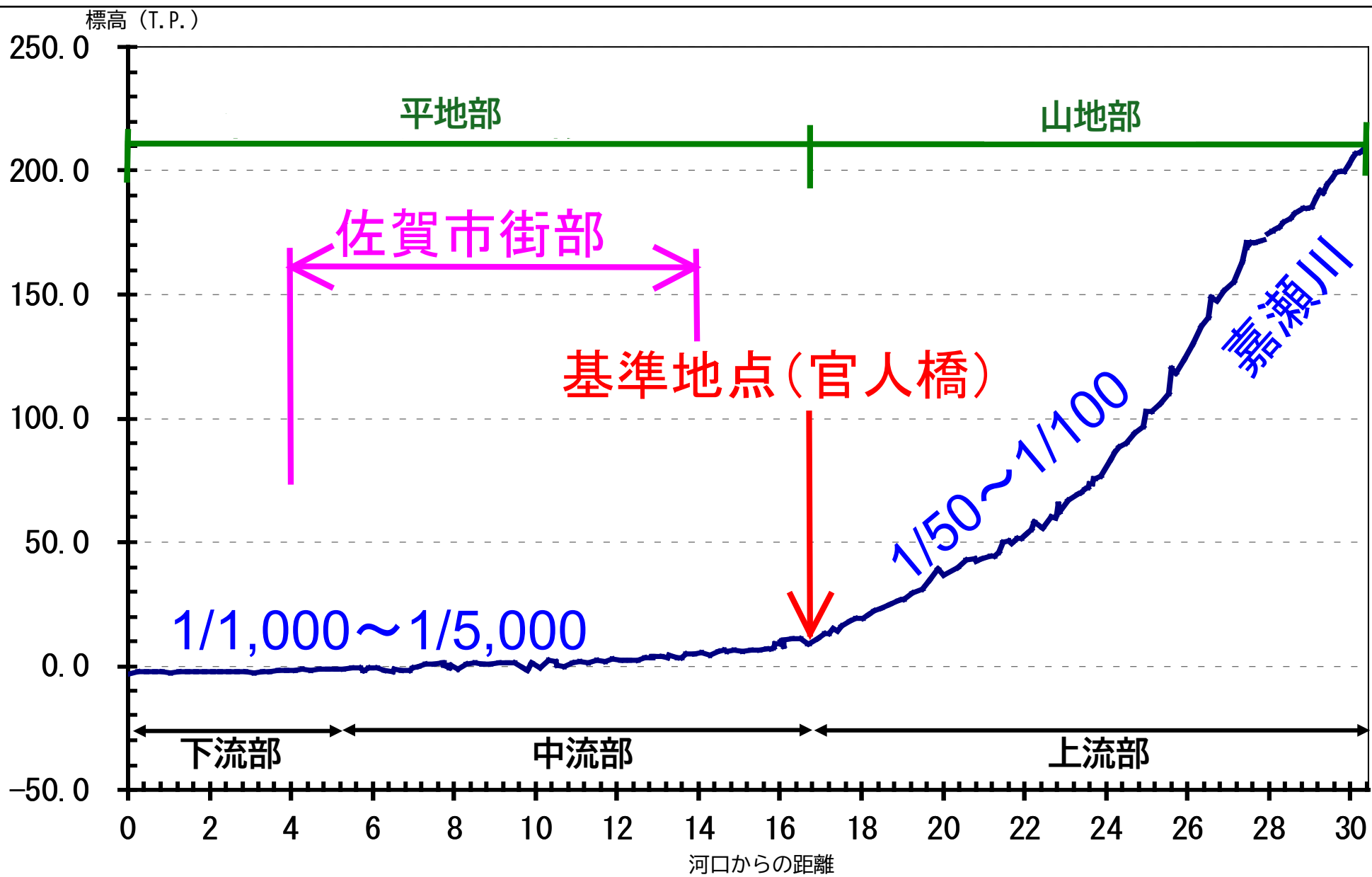
嘉瀬川大堰より下流の状況



A-A' 地点の断面図

I. 嘉瀬川流域の特徴

○嘉瀬川の勾配は山地部で急峻であり、平地部で緩やかな勾配となっている



2. これまでの主な洪水被害

○嘉瀬川では、昭和24年8月洪水をはじめ、幾度となく大きな水害に見舞われており、近年においても、令和元年8月、令和5年7月など、浸水被害が頻発している

昭和24年8月洪水



筏で通る池上地区の状況

昭和38年6月洪水



古湯中の橋付近の出水状況

令和元年8月洪水



佐賀市内の道路冠水

昭和28年6月洪水



決壊箇所の復旧工事

平成2年7月洪水



佐賀市内の道路冠水

令和5年7月洪水



川上水位観測所付近の状況

年代	水害状況
昭和	昭和24年8月(台風) 家屋全半壊543戸 家屋流失111戸 床上浸水11,559戸 床下浸水13,993戸
	昭和28年6月(梅雨前線) 床上・床下浸水31,032戸 家屋の流失・全半壊175戸
	昭和29年9月(台風) 床上・床下浸水3,045戸 家屋の流失・全半壊175戸
	昭和30年4月(低気圧) 床上・床下浸水2,648戸
	昭和38年6月(梅雨前線) 床上・床下浸水1,274戸 家屋の流失・全半壊115戸
平成	昭和42年7月(梅雨前線) 床下浸水402戸
	昭和47年7月(梅雨前線) 浸水家屋8,500戸
	平成2年7月(梅雨前線) 床上浸水1,783戸 床下浸水12,327戸
	平成22年7月(梅雨前線) 床下浸水1戸
令和	令和元年8月(前線) 床上浸水542戸 床下浸水2,851戸
	令和3年8月(前線) 床上浸水55戸 床下浸水446戸
	令和5年7月(梅雨前線) 床上浸水1戸 床下浸水6戸

3. 嘉瀬川水系の治水計画

- 嘉瀬川の大庄管理区間における治水計画は、「嘉瀬川水系河川整備基本方針(H18.11)」を長期計画として、戦後第1位の洪水である昭和24年8月洪水を目標としており、「嘉瀬川水系河川整備計画(H19.10)」では、概ね20年で戦後第3位である昭和38年6月洪水に対する安全度確保を目標として、嘉瀬川及び祇園川の整備を進めてきた
- 知事管理区間については、平成29年3月に本庄江の河川整備計画を策定し、整備を進めている。

河川整備計画とは？

「河川法」に基づき、治水・利水・環境の3つを柱に、地域の意見を反映したうえで、今後概ね20～30年間の具体的な河川整備の目標およびその内容を定めるもの

嘉瀬川水系河川整備計画の基本理念

「歴史情緒あふれる自然豊かな嘉瀬川」

治水

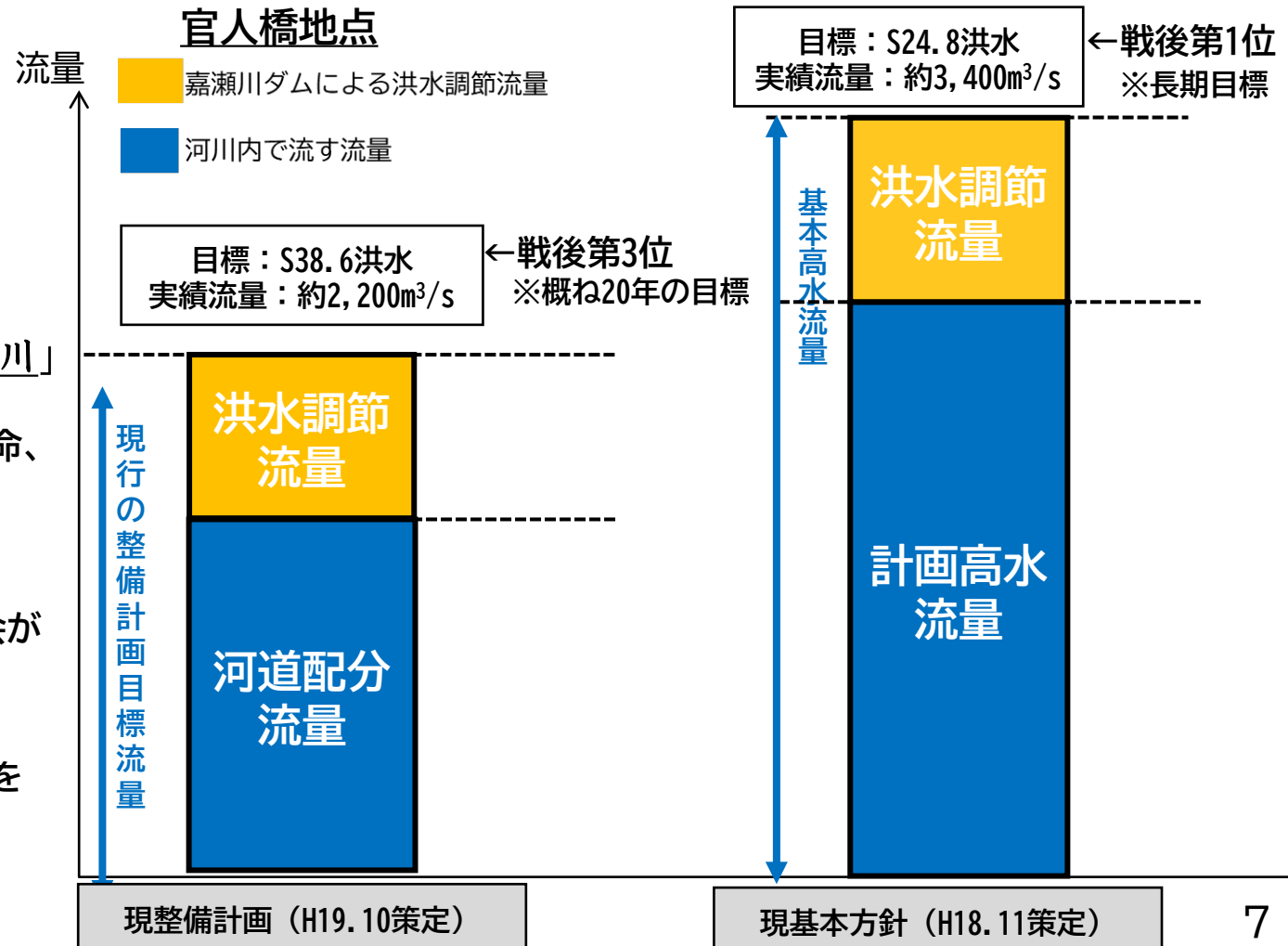
災害から流域住民の貴重な生命、財産を守り、安全で安心してくらしを創る川づくり

利水

川の恵みに感謝し、豊かな社会が築ける川づくり

環境

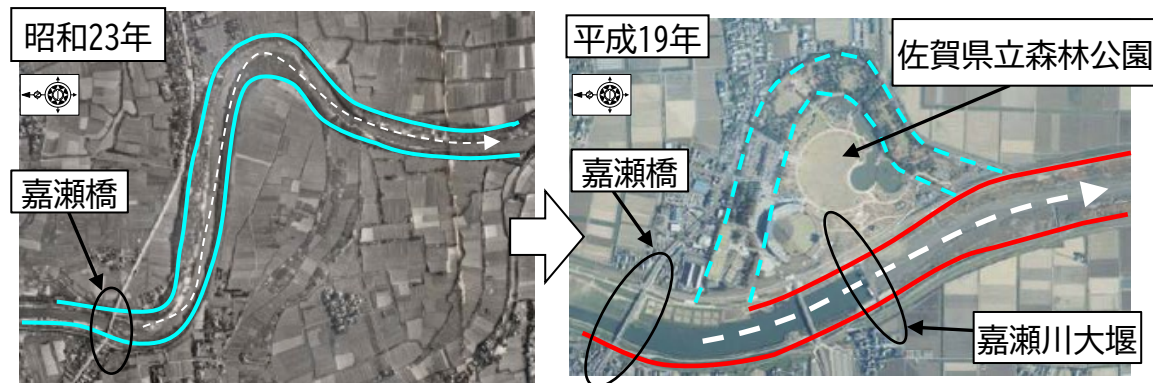
嘉瀬川らしい自然環境と歴史を保全・創出し、将来に継承する川づくり



4. これまでの整備状況



①捷水路工事 (昭和37年完成)



捷水路とは⇒洪水を流れやすくすることを目的として、曲がりくねった河川を真っ直ぐにするための水路

②嘉瀬川大堰の建設 (平成3年完成)



洪水の流下能力確保のために固定堰であった旧徳万堰を改築し、堰の可動化により河積確保

4. これまでの整備状況



③嘉瀬川ダムの建設（平成24年完了）

建設前



完成後

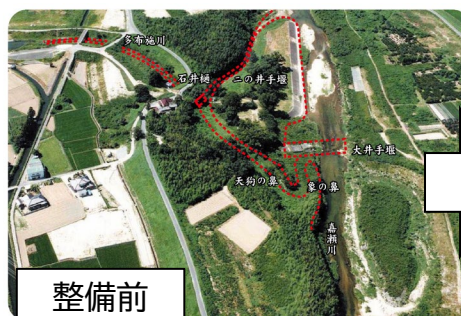


【嘉瀬川ダムの役割】

洪水調節、河川の維持用水の補給、
かんがい用水の補給、都市用水の
供給、発電

④大井手堰の建設・石井樋の復元（平成17年完了）

整備前



整備後

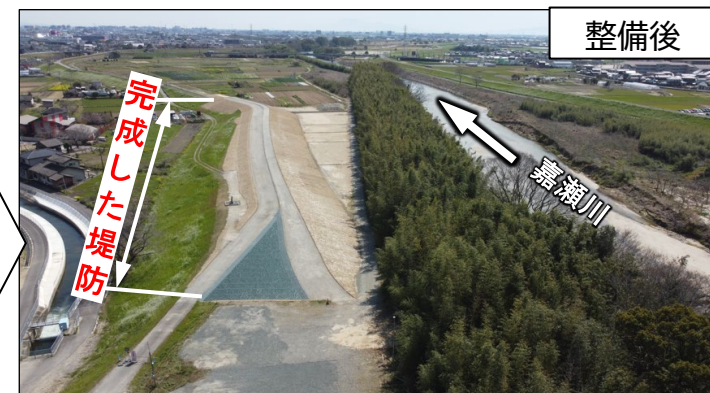
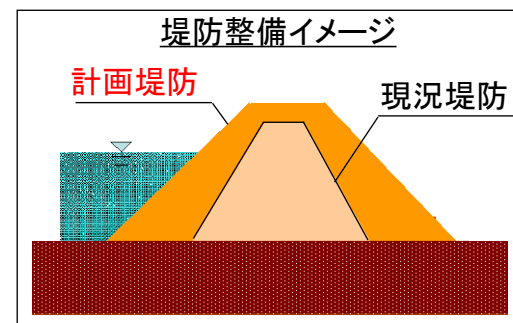


4. これまでの整備状況

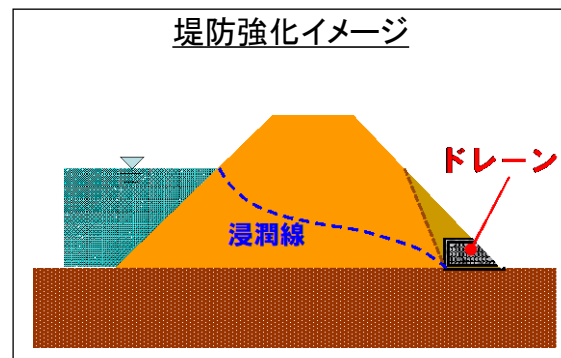
凡	例
完成堤防	
暫定堤防	



⑤堤防整備（流下能力向上）

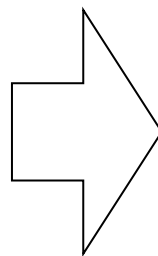


⑥堤防整備（浸透対策）

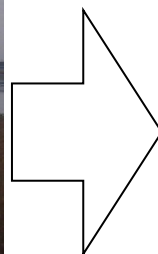


4. これまでの整備状況

⑦河道掘削・樹木伐採



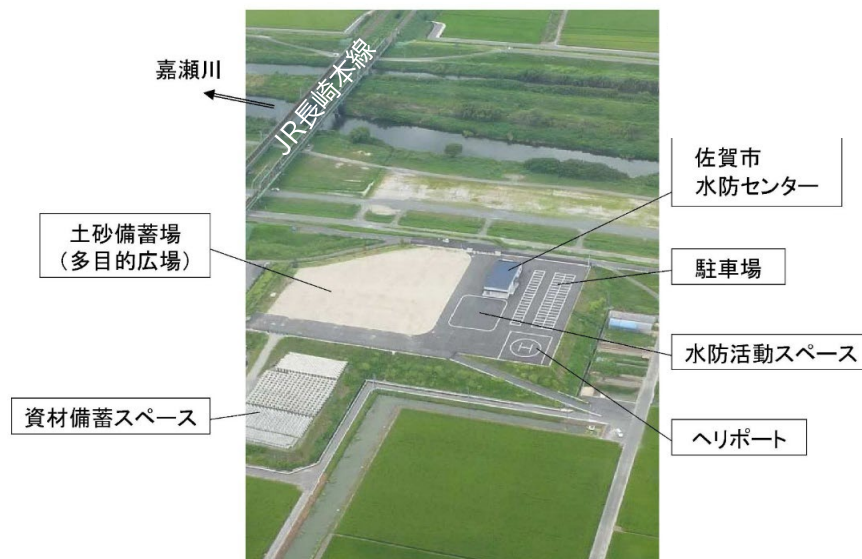
⑧高潮対策



4. これまでの整備状況



⑨河川防災ステーション（平成22年完了）



⑩緊急輸送路（令和7年完了）



4. これまでの整備状況



⑪嘉瀬川ダム地区かわまちづくり

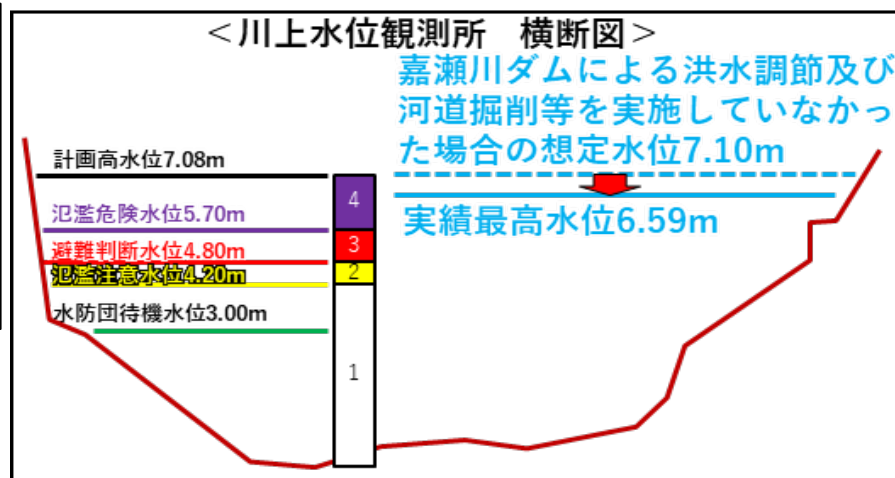
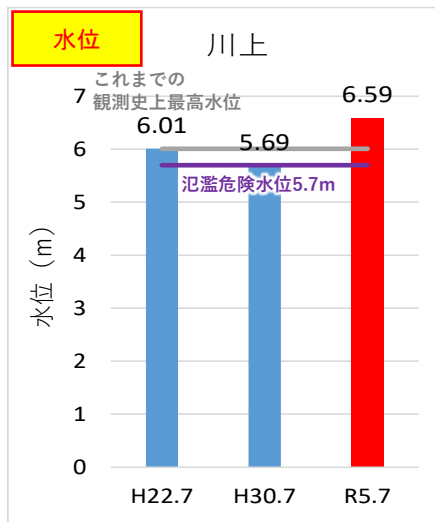
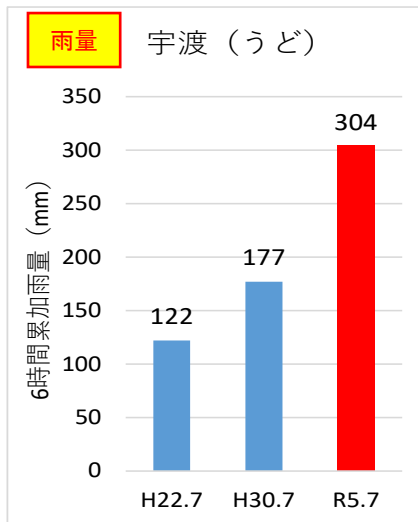


⑫尼寺地区かわまちづくり



【参考】治水対策の実施による効果

- 嘉瀬川川上水位観測所では、令和5年7月10日の出水において、観測史上最高水位を記録。
- 嘉瀬川では、これまで嘉瀬川ダム建設（H24完成）とともに、国土強靱化予算等を活用し、河道掘削等を実施。
- 今次出水では、嘉瀬川ダムによる洪水調節及び河道掘削等により、約50cmの水位低減効果があったと考えられる。



5. 気候変動による水災害の激甚化・頻発化

○近年、全国各地で自然災害が頻発

平成
27
29年

平成27年9月関東・東北豪雨



①鬼怒川の堤防決壊による浸水被害
(茨城県常総市)

平成28年熊本地震



②土砂災害の状況
(熊本県南阿蘇村)

平成28年8月台風10号



③小本川の氾濫による浸水被害
(岩手県岩泉町)

平成29年7月九州北部豪雨



④桂川における浸水被害
(福岡県朝倉市)

主な水災害

平成
30年

7月豪雨



⑤小田川における浸水被害
(岡山県倉敷市)

台風第21号



⑥神戸港六甲アイランドに
おける浸水被害
(兵庫県神戸市)

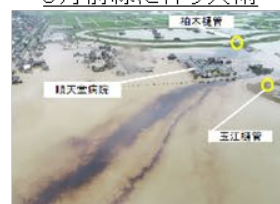
北海道胆振東部地震



⑦土砂災害の状況
(北海道厚真町)

令和
元年

8月前線に伴う大雨



⑧六角川周辺における浸水被害
(佐賀県大町町)

東日本台風



⑨千曲川における浸水被害
(長野県長野市)

令和
2年

7月豪雨



⑩球磨川における浸水被害
(熊本県人吉市)

令和
3年

8月豪雨



⑪池町川における浸水被害
(福岡県久留米市)

令和
4年

8月からの大雨



⑫最上川における浸水被害
(山形県大江町)

令和
5年

8月の豪雨



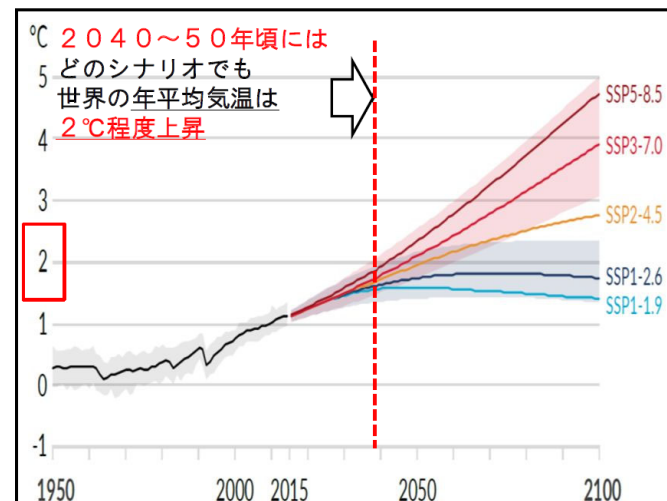
⑬13太平川における浸水被害
(秋田県秋田市)



6. 気候変動を踏まえた治水計画のあり方

気候変動を踏まえた治水計画のあり方

- 年平均気温上昇を2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
現行の治水対策が完了したとしても治水安全度は目減り
- 河川整備計画等についても、気候変動を踏まえ安全度を維持するための目標外力の引き上げが必要



気候変動による降雨量の増加※、潮位の上昇などを考慮したものに計画を見直し

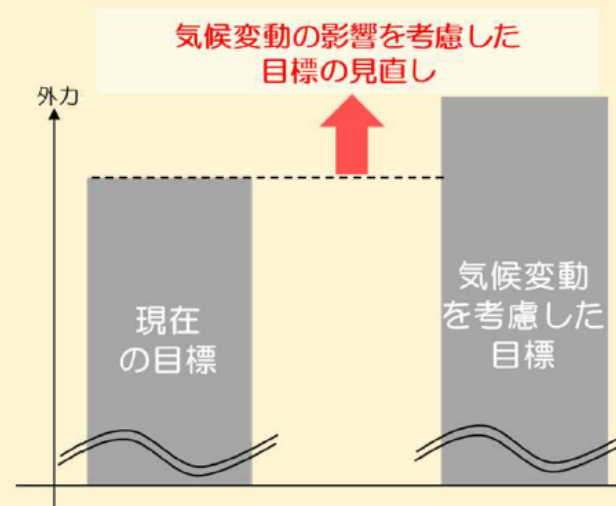
※ 世界の平均気温の上昇を2度に抑えるシナリオ(パリ協定が目標としているもの)

気候変動 シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模(1/100等))
2℃上昇相当	約1.1倍

降雨量が約1.1倍となった場合

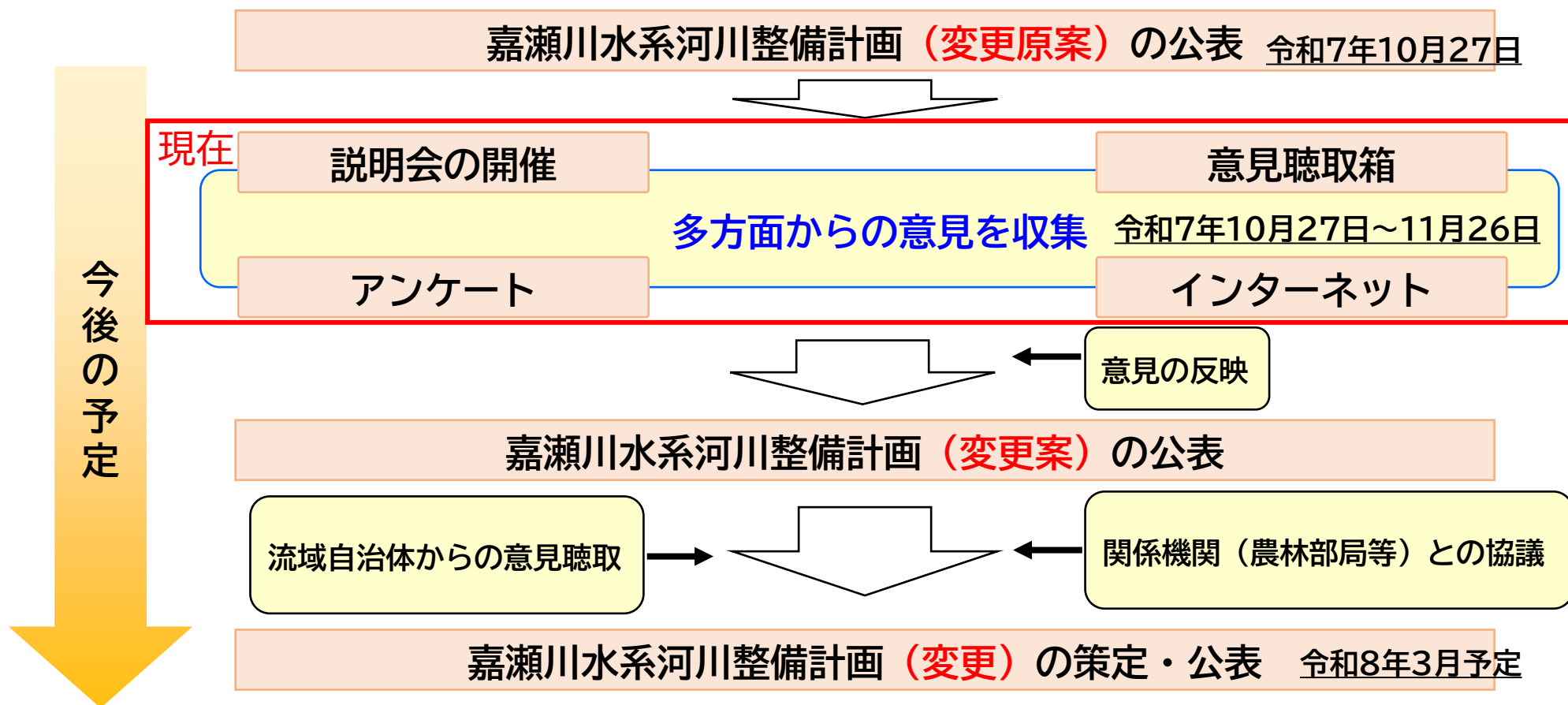
全国の平均的な 傾向【試算結果】	流量	洪水発生頻度
	約1.2倍	約2倍

※ 流量変化倍率及び洪水発生頻度の変化倍率は、一級水系の河川整備の基本とする洪水規模(1/100~1/200)の降雨に降雨量変化倍率を乗じた場合と乗じない場合で算定した、現在と将来の変化倍率の全国平均値



7. 嘉瀬川における今後の治水対策について

○平成19年10月に策定した現行の河川整備計画で定めた対策が概ね完了していること及び気候変動による降雨量の増加に対応していく必要があることなどを踏まえ、令和8年3月の河川整備計画変更に向けて現在手続中



7. 嘉瀬川における今後の治水対策について

- 現行整備計画の目標は戦後第3位である昭和38年6月洪水規模であるが、対策は概ね完了
- 変更整備計画では、戦後第2位である昭和28年6月洪水規模に気候変動による降雨量の増大を考慮した流量に対応する

官人橋地点

目標：S38.6洪水
実績流量：約2,200m³/s

戦後第3位

目標：S28.6洪水
実績流量：約2,600m³/s

戦後第2位

目標：S24.8洪水
実績流量：約3,400m³/s

戦後第1位

3,400m³/s

流量

嘉瀬川ダムによる洪水調節流量

河川内で流す流量

整備計画目標流量

洪水調節
流量

2,200m³/s

1,500m³/s

河道配分
流量

整備計画目標流量

洪水調節
流量

2,900m³/s

気候変動による
影響を考慮
2,600m³/s
(実績)
2,300m³/s

河道配分
流量

基本高水流量

洪水調節
流量

2,500m³/s

計画高水
流量

現整備計画
H19.10策定

変更整備計画
R8.3策定（予定）

今後見直し予定
現基本方針
H18.11策定

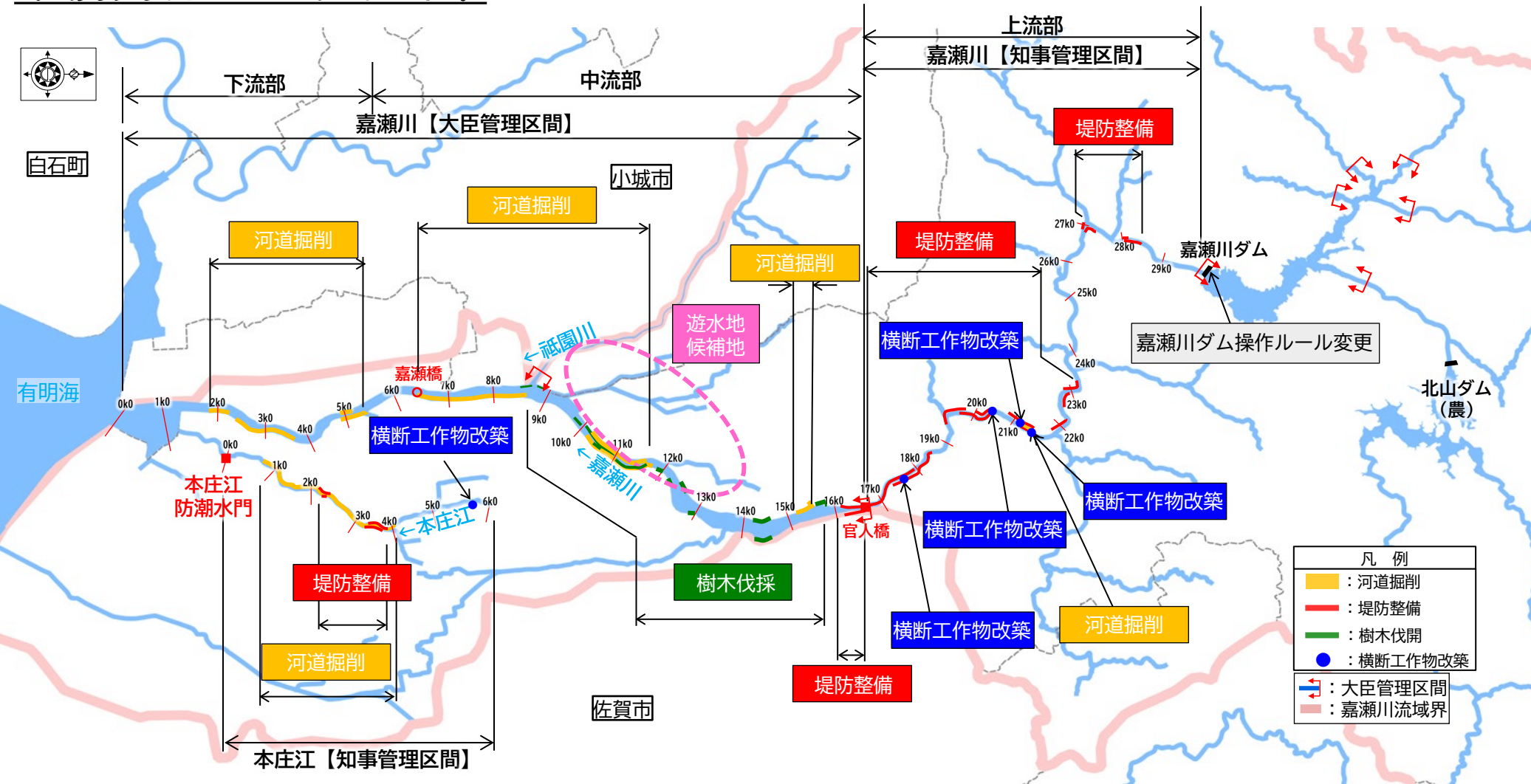
7. 嘉瀬川における今後の治水対策について

河川整備計画変更のポイント

- ①戦後第2位である昭和28年6月洪水規模に気候変動による降雨量の増大を考慮した流量に対応する
- ②①の目標に対し、整備期間を概ね20年間として、堤防整備・河道掘削・樹木伐採・遊水地整備・横断工作物改築等を実施する
- ③河道掘削等の実施にあたっては、嘉瀬川特有の生物の生息・生育・繁殖の場を保全・創出する
- ④嘉瀬川ダムについて、より大きな洪水に対応できるよう操作を変更
- ⑤施設の能力を上回る洪水に対しても、被害を最小化する
- ⑥あらゆる関係者と連携した「流域治水」の取組を推進する

7. 嘉瀬川における今後の治水対策について

今後実施する治水対策



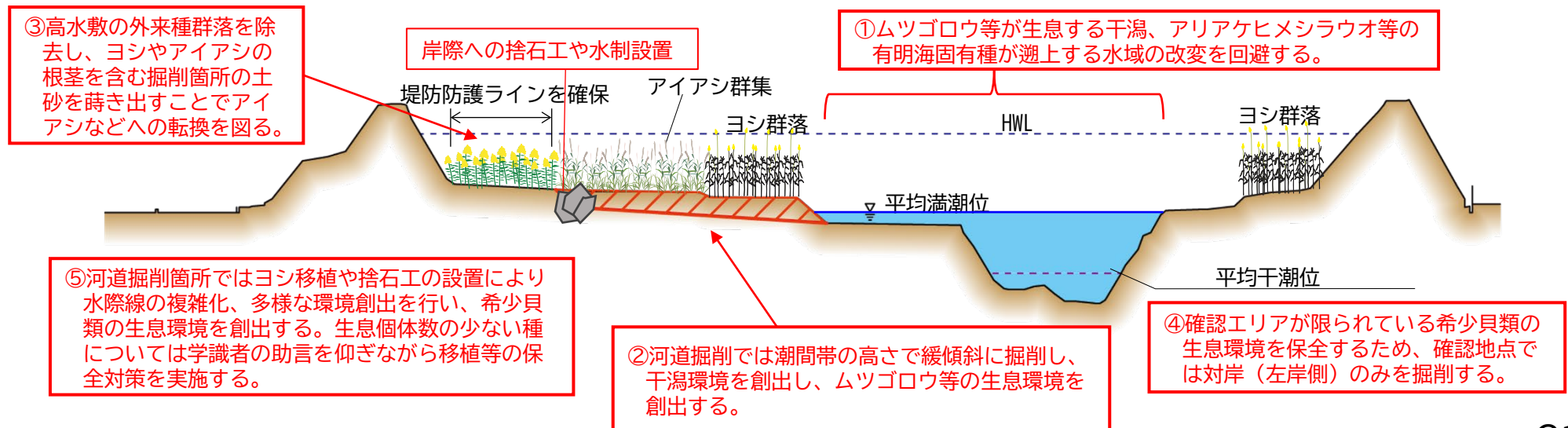
※施工の場所の起終点及び法線位置については、地形の変化等に伴い微細な変更が生じる可能性があります。
※遊水地の位置・諸元等については、今後検討するため、変更が生じる可能性があります。

7. 嘉瀬川における今後の治水対策について

今後実施する治水対策【下流部】

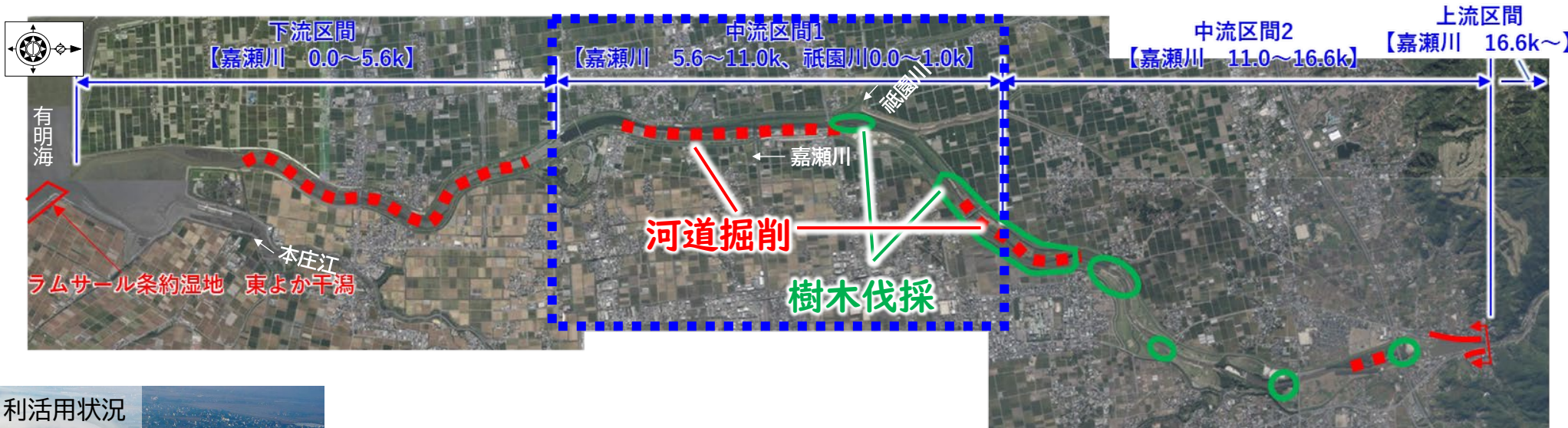


河道掘削のイメージ



7. 嘉瀬川における今後の治水対策について

今後実施する治水対策【中流部①】

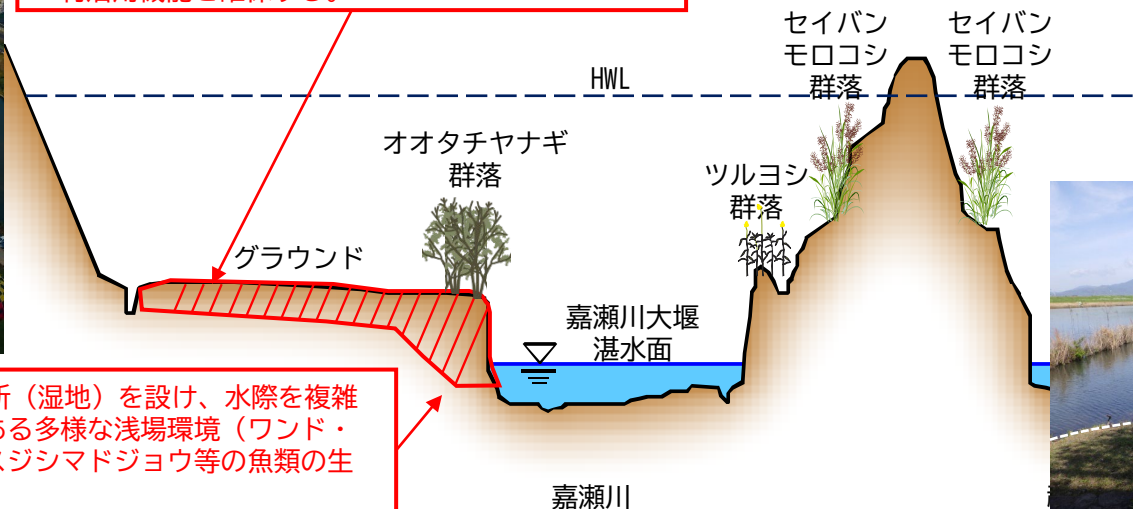


利活用状況



①当該区間は、「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」会場として利用されていることから、利活用に影響がない高さで高水敷切り下げを行い、利活用機能を確保する。

河道掘削のイメージ



②切り下げにより攪乱をうける場所(湿地)を設け、水際を複雑化することにより、水際植生のある多様な浅場環境(ワンド・たまり)が形成され、アリアケシジマドジョウ等の魚類の生息場となることが期待される。

7. 嘉瀬川における今後の治水対策について

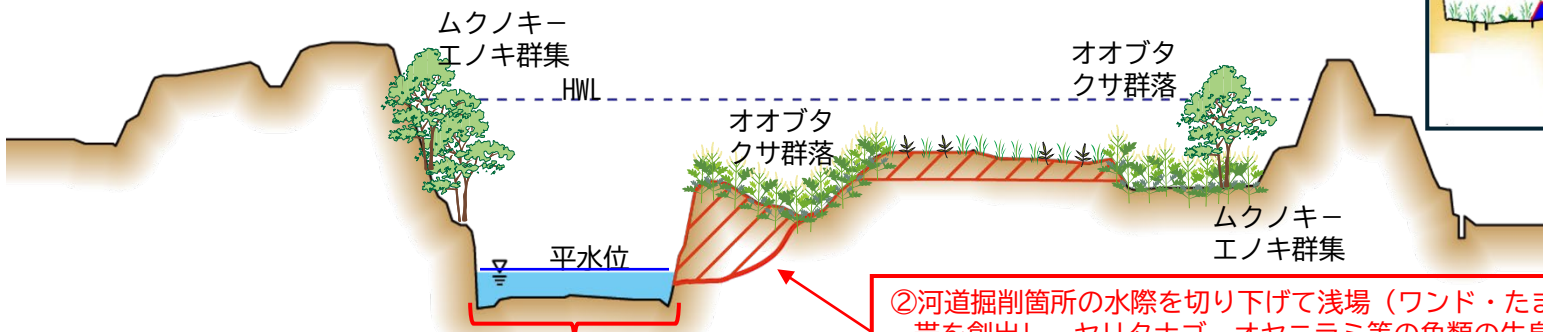
今後実施する治水対策【中流部②】



③樹木伐採箇所で植物の重要な種の生育が確認された場合は移植を検討する。

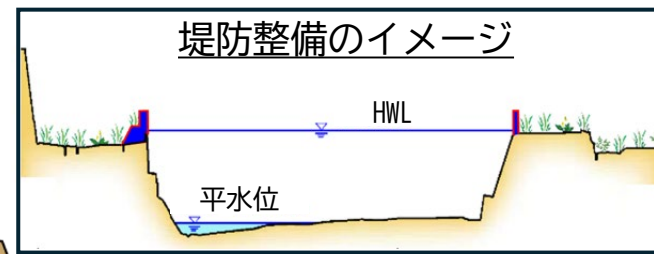
④河道掘削箇所の竹林は根茎ごと除去することで竹林の再繁茂を抑制し、植生の多様化を促す。モニタリングにより再繁茂抑制効果を確認する。

河道掘削のイメージ



①河床を保全することで瀬・淵に生息するアユ等の魚類の生息環境を保全する。流れの単調な箇所では水制工や床固めにより多様な流れを創出する。

②河道掘削箇所の水際を切り下げて浅場（ワンド・たまり）・水際植生帯を創出し、ヤリタナゴ、オヤニラミ等の魚類の生息場・産卵場を創出する。



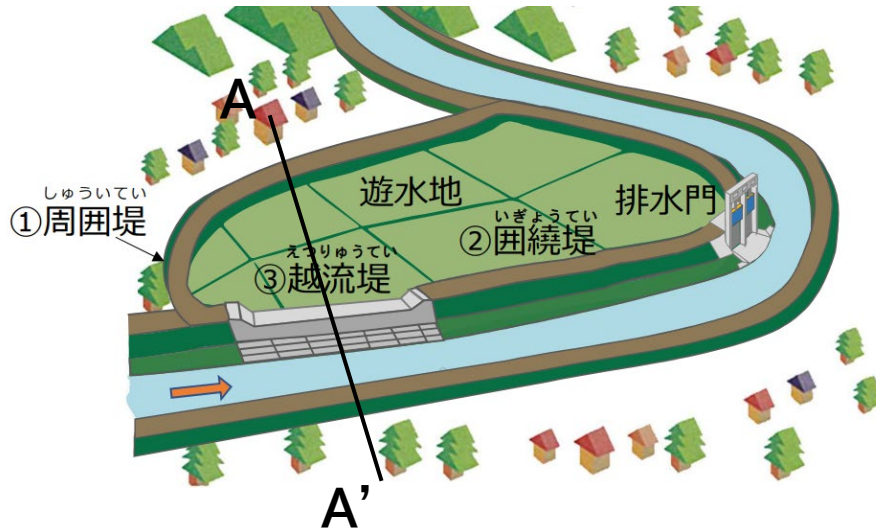
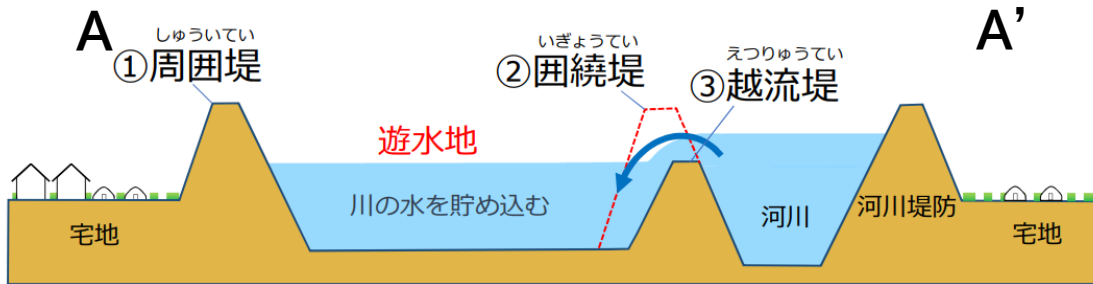
7. 嘉瀬川における今後の治水対策について

今後実施する治水対策【遊水地】

遊水地とは？

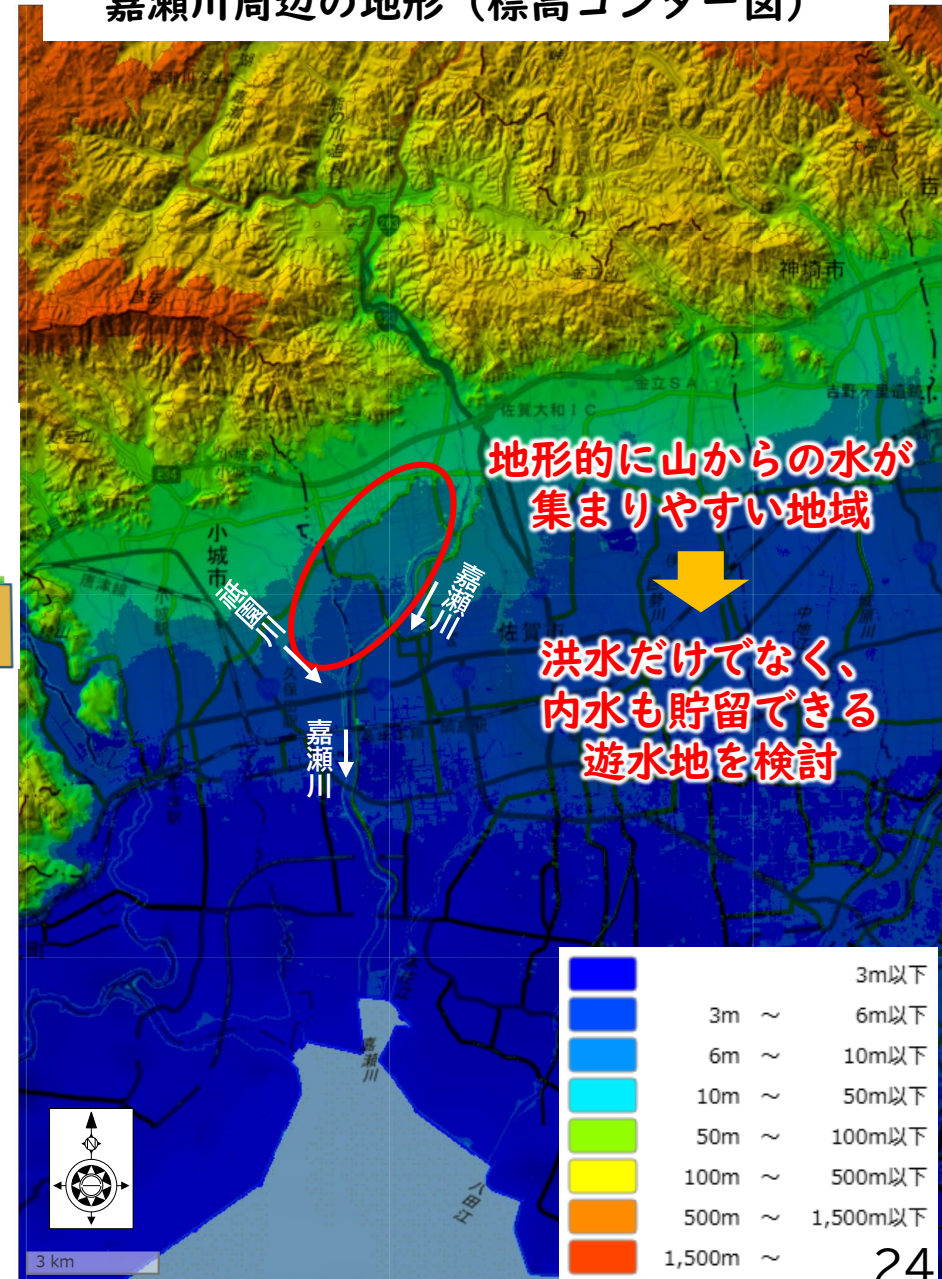
洪水で川の水が増えた際、その水を一時的に貯め込み、川の水位を下げるための施設

遊水地のイメージ



※遊水地の位置・諸元等については、今後詳細に検討するため、現時点で具体的な整備場所が決まっているものではありません

嘉瀬川周辺の地形（標高コンター図）



7. 嘉瀬川における今後の治水対策について

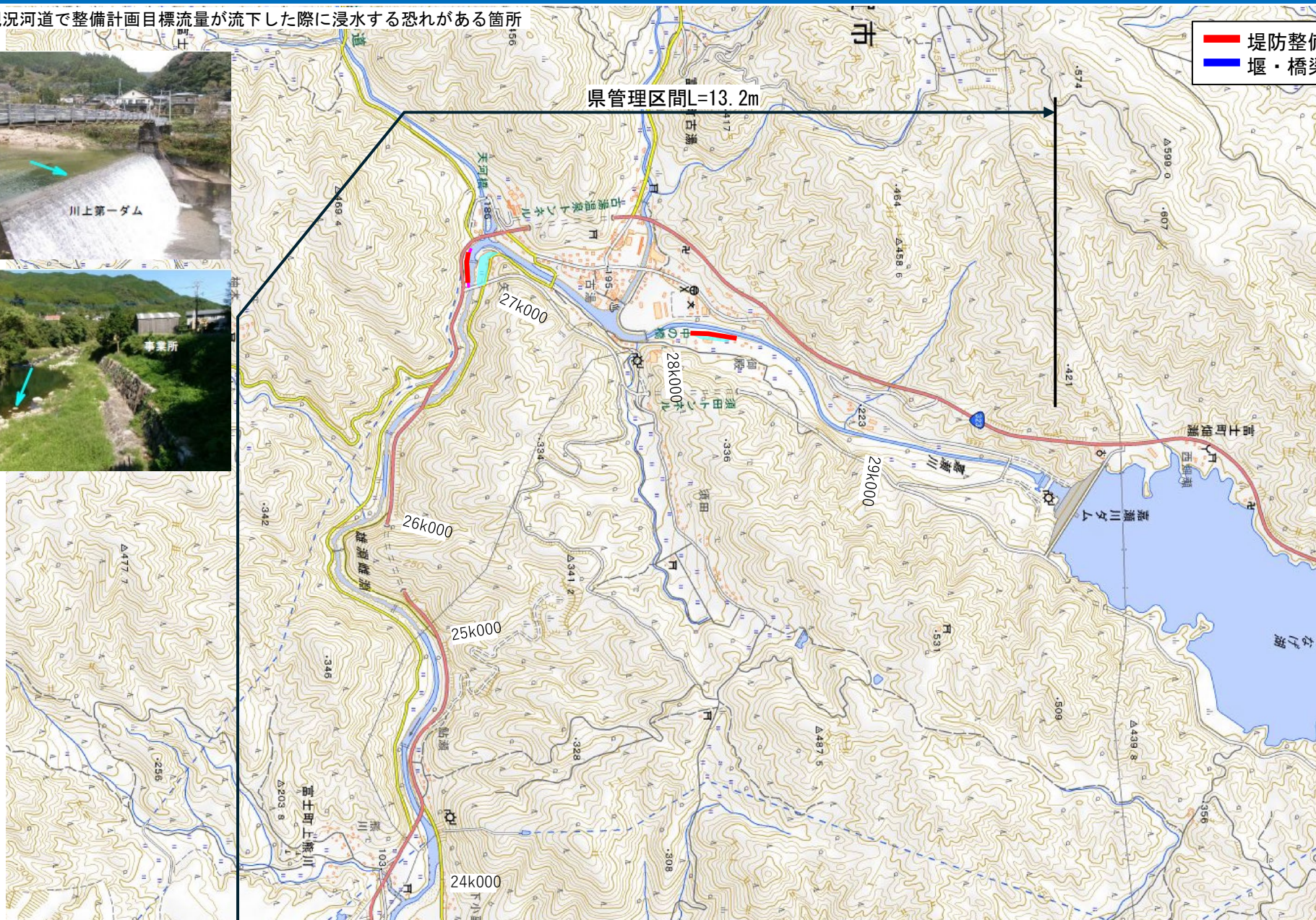
- 家屋及び道路の浸水の恐れがある区間について、堤防を整備（堤防整備にあわせて、河川に並走している国道の嵩上げも実施）
- 流下障害となる堰の改築（井手の原堰）や、橋梁の改築（昭和橋、利休橋、渡月橋（歩道橋））を実施

：現況河道で整備計画目標流量が流下した際に浸水する恐れがある箇所



7. 嘉瀬川における今後の治水対策について

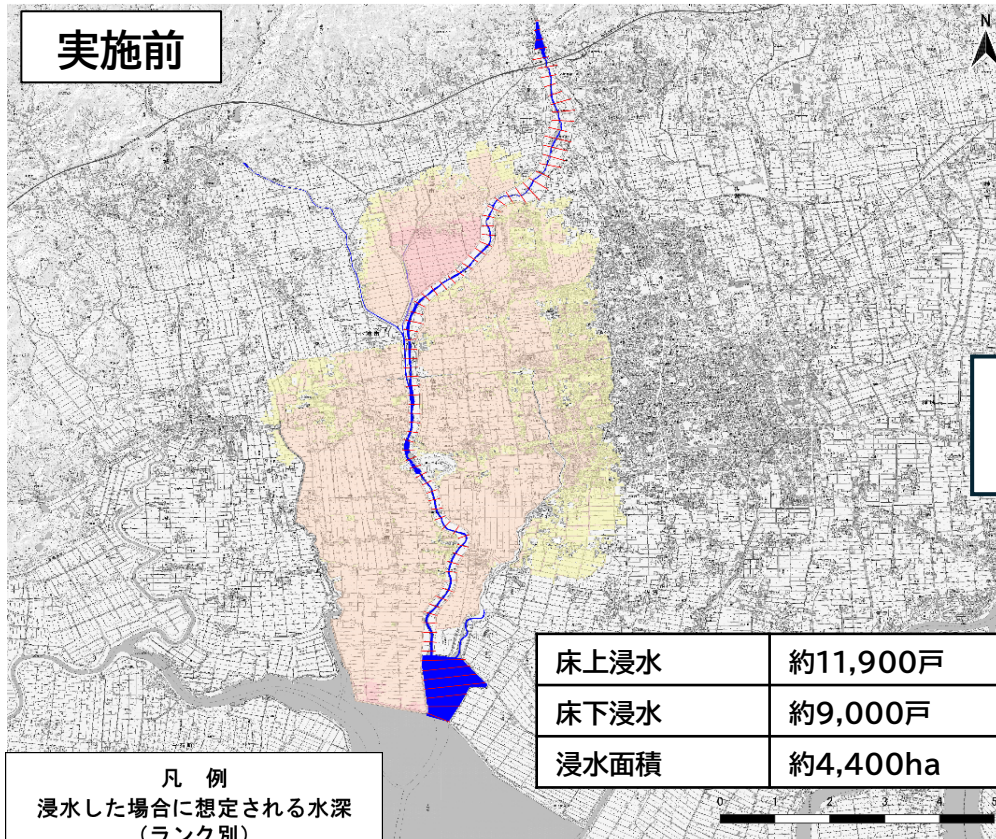
：現況河道で整備計画目標流量が流下した際に浸水する恐れがある箇所



7. 嘉瀬川における今後の治水対策について

○治水対策の実施により、河川整備計画変更で目標とする流量（官人橋地点の河道配分：2,300m³/s）に対し、約21,000戸の浸水被害が解消すると想定
※大臣管理区間における河川からの氾濫を見込んだ解析結果（内水は含んでいない）

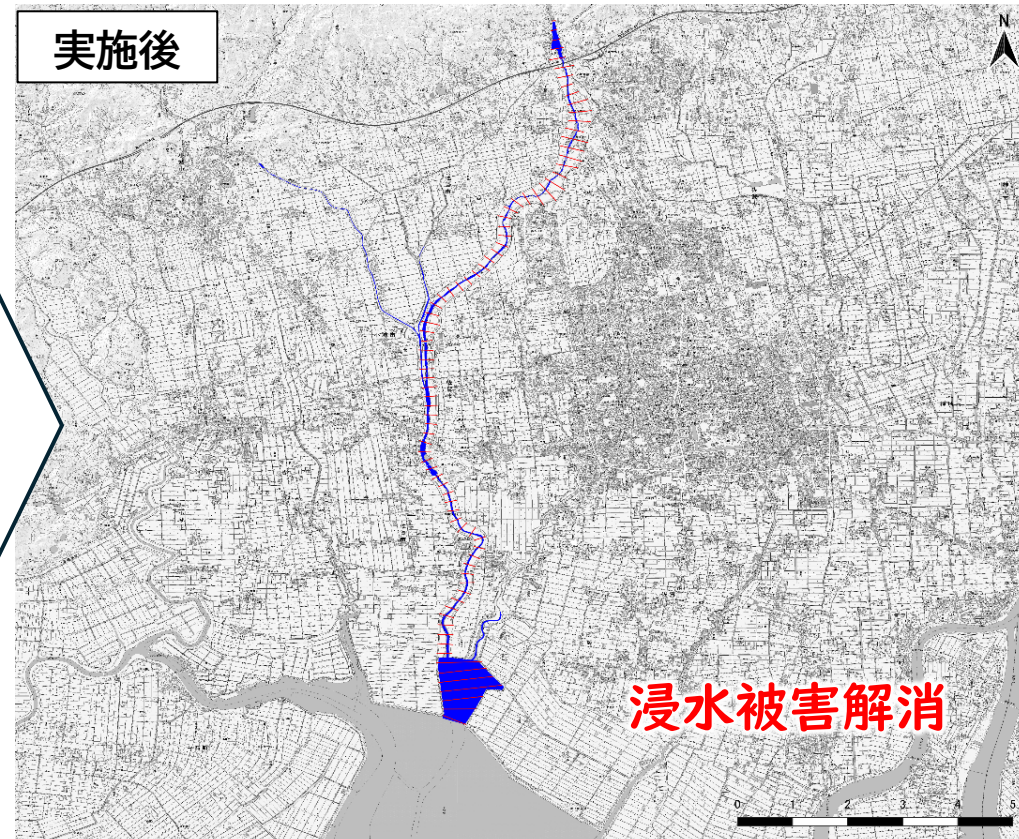
実施前



凡 例
浸水した場合に想定される水深
(ランク別)

- 0.5m未満の区域
- 0.5m～3.0m未満の区域
- 3.0m～5.0m未満の区域
- 5.0m～10.0m未満の区域
- 10.0m～20.0m未満の区域
- 20.0m以上の区域

実施後



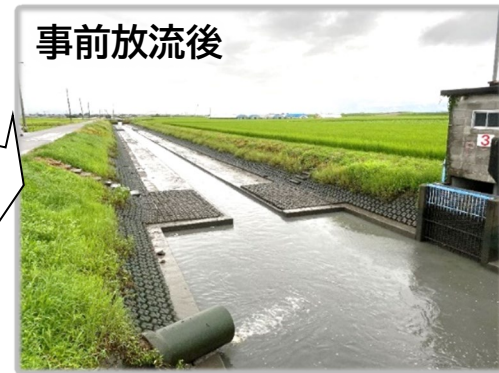
7. 嘉瀬川における今後の治水対策について

流域治水の更なる推進



流域治水とは？

河川の中だけでなく、集水域（雨水が河川に流入する地域）から氾濫域（河川等の氾濫により浸水が想定される地域）にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方



クリークの事前排水

佐賀市の取組（佐賀城お堀の活用や田んぼダムなどの取組）

溜める

お濠の水位を約21cm下げた状態で管理し、

周辺地域の浸水被害軽減！



溜める

貯留機能を増強しました



7. 嘉瀬川における今後の治水対策について

○いつ起こるか分からない災害に備えるため、日頃から防災意識を構築し、水災害を自分事として捉えることが大切



水防訓練の実施



地元自治会の防災研修



防災アプリによる情報発信



防災に関する出前講座